News Release

2024 年 10 月 17 日

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の 2024 年度「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」への応募テーマの採択について

株式会社タカギセイコー

タカギセイコーは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募した2024年度「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」に対して、「航空機構造部品の熱可塑性スーパーエンプラ複合材による革新的量産化技術の開発」とした研究開発テーマで応募し、採択されました。

このプログラムは、我が国における脱炭素社会を実現しつつ産業競争力を強化するために、革新的な省エネルギー技術の開発と社会実装に向けた取り組みを支援することを目的としており、資源エネルギー庁とNEDOが策定した「省エネルギー・非化石エネルギー転換技術戦略2024」に基づき、省エネルギー効果が高く見込まれる技術開発を対象に選定されるものです。

タカギセイコーは、2021年に同プログラムの実用化開発案件として採択されて以降 3 年間にわたり、旭金属工業株式会社（京都府京都市上京区）とともに、本テーマに関する研究開発に取り組んできました。今回は、その成果を踏まえ、量産化を見据えた実証開発案件として新たに採択されたものとなります。

タカギセイコーは、今後も環境にやさしい企業として、脱炭素社会の実現に向け世界最先端の熱可塑性複合材の成形技術力で貢献してまいります。

◇本開発の内容

①量産成形加工工程の開発

②成形加工技術の開発

・開発期間　：　2026年3月31日まで

◇本テーマの概要

近年、航空機の構造部品にはCFRP（炭素繊維強化プラスチック）が広く使われるようになってきましたが、その多くは熱硬化性樹脂で作られています。この素材は、軽量性に優れているものの、成形・加工に時間がかかり、製造エネルギーと量産性の面で課題がありました。

タカギセイコーはその課題を解決するため、製造時のエネルギー消費が少なく量産性に優れたスーパーエンプラと呼ばれる高性能な熱可塑性樹脂を使った新しい製造技術の開発に取り組み、より低コストで効率的に製品を作ることと環境に優しい製造プロセスを実現することを目指しています。

タカギセイコーは、今後 2 年間で成形システムの改良や量産化技術の確立を進め、熱可塑性樹脂を用いた製品（部品）の実用化に向けた技術開発を加速させます。

◇本件に関するお問い合わせ先

株式会社タカギセイコー　開発・技術本部　開発部　滝　真一

Tel:0766-84-2318　Fax：0766-84-2321